

後部要素が3・4拍の複合名詞の核位置保存について —連濁との関係を中心に—

劉 汝源 (神戸市外国語大学大学院)
liu15645578@yahoo.co.jp

1. はじめに

東京方言における複合名詞のアクセント (以下ア) は, アの面から, 「1単位の複合名詞」 (以下A型), 「不完全複合名詞」 (以下B型), 「2語連続」の3タイプに分類できる. A型は前部要素 (以下X) と後部要素 (以下Y) とともにア核が消え, 全体のA核をYの語頭拍に置く. それに対し, 「2語連続」はXとYの各語のA核位置が保存される. 中間的なB型は, XのA核が消え, Yの核位置が保存される.

上野 (1999) は窪菌 (1997) の観点を補足し, Yの核位置保存はYの拍数や形態素数によって分類できると主張している. (1) $Y \geq 5$ 拍或いは $Y \geq 3$ 形態素であれば, B型になる. 例: 南カリフォルニア[]] =, 市立図書[]]館. (2) ただし, Yが3・4拍かつ中高型であれば, B型になる場合がある. 例: 大和ナデ[]]シユ.

このうち, (2) について, 松森他 (2012) によればYが4拍語の場合には, 3拍語よりもB型はるかに多い. しかし, Yが4拍でも, 外来語以外の中高型ではYの語末が特殊拍の場合は, A型となることが多い. 特に, Yが「4拍」の「-2型」で, かつ語末が特殊拍の場合には, Yの中高型が保存されないことが多い. 例: ホーゲ[]]ン (方言) →チバ-ホ[]]ーゲン (千葉方言). (以下「語末特殊拍要因」)

また(2)について, 『新明解日本語アクセント辞典』 (2015) によると, Yが漢語二字の結合名詞であれば, 「後部が中高型の語の場合に限り, もとの高さの切れめまで高い. 但し, この場合も拍数の多いものや, 無声化で中高型になった語は, 高さの切れめが前にずれる」と記載している. 例: 地方[Ⓢ]ほーの語頭に無声化が起って[Ⓢ]ほーになり, 複合して 奥羽地方 おおわ[Ⓢ]ほーになる. (以下「語頭拍母音無声化要因」)

上野 (1999) は複合名詞のA保存について, 一度「複合語化」 (複合名詞A規則の適用) によりAが与えられた単語は, 上位の2次複合語にYとして組み込まれても, そのA型が保存されると主張している. 例: 針[]]師, 庭[]]師→女針[]]師, 見習い庭[]]師. (以下「複合回数要因」)

先行諸研究以外に, 本発表では(2)について, 「連濁」という要因を新たに指摘する. 例: 心[]]こころ, ころろ[]]→歌心[]]うたごころ, 砂糖[]]さと[]]う→角砂糖[]]かくざとう. (以下「連濁要因」)

2. 検証結果と分析

「連濁要因」を検証するため, 『日本語発音アクセント新辞典』 (2016) と『新明解日本語アクセント辞典』 (2015) からYが3・4拍かつ中高型の複合名詞 (Yが漢語または和語の合計786語, ただしYが3形態素以上の場合は除く) を抽出・分析し, 「連濁要因」が正しいことを実証した.

抽出したすべての語を連濁・不連濁・連濁不関与の3種類に分ける:

このうち, 不連濁語の「語頭拍母音無声化要因」によって, 語頭拍母音の無声化がYの

核位置保存に影響を与えるため、「語頭拍母音が無声化する語」と「語頭拍母音が無声化しない語」に分類できる。不連濁語には「ライマンの法則」によって連濁しない語が約3分1を占めているが、連濁不関与ではなく、不連濁に入れた。

ア辞典の記載では、Yが中高型のみの場合と、中高型と平板型、頭高型、尾高型と共存する場合がある。元のYのアが複合名詞のアに影響を与える可能性があるため、この2つのタイプに分けて統計した。

複合名詞のアは以下の3つに分類できる。したがって、連濁とYの核位置と複合名詞のアの関係は表1のように示される。(A型: ~+○]○○, ~+○]○○○ B型: ~+○○]○, ~+○○]○○, ~+○○○]○ AB型: 1つの複合名詞にA型とB型が共存する)

表 1: 連濁と核位置の関係

		タイプ I : Y が中高型のみ			(e)タイプ II : Y が中高型とその他の型が共存する		
		A 型	B 型	AB 型	A 型	B 型	AB 型
総体数		206 (26.2%)	126 (16.0%)	125 (15.9%)	200 (25.5%)	3 (0.3%)	126 (16.0%)
連濁	(a)	65 (8.3%)	0	5 (0.6%)	121 (15.5%)	0	5 (0.6%)
不連濁	(b)Y の語頭拍母音が無声化する	1 (0.1%)	7 (0.9%)	28 (3.6%)	16 (2.0%)	0	67 (8.5%)
	(c)Y の語頭拍母音が無声化しない	62 (7.9%)	51 (6.5%)	51 (6.5%)	34 (4.3%)	0	28 (3.6%)
連濁不関与	(d1)Y の語頭が濁音	44 (5.6%)	5 (0.6%)	20 (2.5%)	18 (2.3%)	0	4 (0.5%)
	(d2)Y の語頭が母音	7 (0.9%)	28 (3.6%)	13 (1.7%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	14 (1.8%)
	(d3)Y の語頭子音が /n//m//j//r//w/	27 (3.4%)	35 (4.4%)	8 (1.0%)	9 (1.2%)	2 (0.2%)	8 (1.0%)

表1から以下のことがわかる。

- (a) **連濁** 連濁が起った語において、A型が圧倒的に多く (A型 94.9%)、タイプ I (A型 34.9%)・II (A型 65.1%) とともに関係なく B型が存在しない。AB型も極小 (AB型 5.1%)。
- (b) **Y の語頭拍が無声化** 不連濁語の中、Y の語頭拍母音が無声化する場合、AB型がもっとも多く、タイプ II に集中する (AB型 70.5%)。
- (c) **Y の語頭拍が無声化しない** Y の語頭拍母音が無声化しない不連濁語 (c) では、連濁語に比べると B型がかなり存在する (B型 51個 22.6% (連濁語 B型 0個))。
- (d) **連濁不関与** 連濁不関与語全体 (d) では B型の割合が Y の語頭拍が無声化しない語 (c) の割合より少し大きい (B型 71個 28.9%)。
- (e) **タイプ II** 連濁と語頭拍無声化を除くと、タイプ II では B型がほとんど存在しない。(120例中 B型 3例 2.5%)

以上の (a) ~ (e) について考察を加える。

(a) **連濁** B型が存在しないことから連濁がYの核位置保存に影響することがわかる。

表2は『日本語発音アクセント新辞典』(2016)から抽出した連濁語(109個)の一部である。両辞典の連濁語のAB型語が重複しているため、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)から抽出した連濁語(87個)はここで省略する。Yの語境界を判断する基準は『明鏡国語辞典 第二版』(2011)による。

表 2:『日本語発音アクセント新辞典』(2016)から抽出した(a)連濁語

Y語彙	Y読み	Z語彙	Z読み	Yの保存	Y語種	Y語境界	Yタイプ
境	さか]い	国/県/潮/地境	~+ざ]かい	A型	和語	3	I
月夜	つき]よ	星/朧月夜	~+づき]よ ~+づ]きよ	AB型	和語	2+1	I
一つ	①と]つ	一つ一つ	①と]つび]とつ	A型	和語	2+1	I
砂糖	さと]ー	赤/角/黒/氷/白砂糖	~+ざ]とー	A型	漢語	1+2	I
胡椒	こしょ]ー	柚子胡椒	ゆずこ]しょー ゆずご]しょー	A型	漢語	1+2	I
化粧	けしょ]ー	厚/薄/早/冬/夕/雪化粧	~+げ]しょー	A型	漢語	1+2	I
焼酎	しょーちゅ]ー	芋焼酎	いもじょ]ーちゅー	A型	漢語	2+2	I
提灯	ちよーち]ん	絵/小田原/岐阜/白張り/高/高張り/箱/酸漿/盆/弓張り提灯	~+ちよ]ーちん	A型	漢語	2+2	I
正面	しょーめ]ん	裏正面	うらじょ]ーめん	A型	漢語	2+2	I
沢山	たのさ]ん	盛り沢山	もりだ]のさん もりだく]のん	AB型	漢語	2+2	I
		子沢山	こだ]のさん	A型	漢語	2+2	I
心	ここ]ろ こころ]	遊び/魚/歌/絵/幼/男/乙女/親/気/匂/恋/子供/里/静/下/好き/漫ろ/旅/出来/手/情け/盗み/人/二/隔て/仏/真/水/娘/物/大和/世心	~+ご]ころ 気心 きごころ= もある	A型	和語	3	II
鉢	はさみ] はさ]み	糸切/金/紙/刈り込み/木/裁ち/花鉢	~+ば]さみ	A型	和語	3	II
袴	はかま] はか]ま	行燈/伊賀/革/素襖/長/羽織/藤/雪袴	~+ば]かま 羽織袴 はおりばかま] もある	A型	和語	3	II
刀	かたな] かた]な	押っ取り/小/血/手/鈍/腹切り/懐/守り/山刀	~+ちが]たな 血刀 ちがたな]	A型	和語	2+1	II
		小刀	こが]たな こがたな] こがた]な	AB型	和語	2+1	II
二重	②た]え ②たえ]	羽二重	はぶ]たえ は]ぶたえ	AB型	和語	2+1	II
年寄り	としよ]り としより]	奥/若年寄	~+ど]しより	A型	和語	2+2	II
金持ち	かねも]ち かねもち]	大金持ち	おおがね]もち おおが]ねもち	AB型	和語	2+2	II
繕い	つくろ]い= つくろ]い	毛/羽繕い	~+づ]くろい	A型	和語	2+2	II

所帯	しょた]い しょ]たい	大/男/女/新/貧乏/寄合所帯	~+じょ]たい	A型	漢語	1+2	II
普請	しん= し]ん	仮/川/数寄屋/本/道/安普請	~+ぶ]しん	A型	漢語	1+2	II
巾着	きんちゃ]く きんちゃく]	磯/腰巾着	~+ぎ]んちゃく	A型	漢語	2+2	II

表2の特殊な例は以下の3語である:羽二重 はぶ]たえ, は]ぶたえ Xの直後にア核がくる. 小刀 こがたな] は, 中高型以外の尾高型のア核位置保存が見られる. 大金持ち おおがね]もち は, A型にならないがア核位置保存もしない.

「語末特殊拍要因」 例外はあるが, 全体としてB型が少ない. 原因としては, 語末が重音節の場合, 語末音節の核を避けてA型になると考えられる. (1) Yが「4拍」の「-2型」で, かつ語末が特殊拍の場合には:A型176個74.6%, B型13個5.5%, AB型47個19.9%. B型例:若先生 わかせんせ]ー. (2) Yが「3拍」の中高型の場合:A型90個44.6%, B型19個9.4%, AB型93個46.0%. B型例:北日本 きたにほ]ん, 絶対多数 ぜったいたす]ー. 連濁語はA型と極小のAB型の組み合わせである. (A型94.9%, AB型5.1%)

「複合回数要因」 大金持ち おおがね]もち おおが]ねもち, 奥年寄 おくど]しよりのような例では, Yがア上の複合名詞だが, 連濁によってYのアが保存されなくなる.

削除例 1つだけの削除例がある. 連濁語としての 夕月夜 ゆーづき]よ は連濁してもYのア位置が保存される. 『明鏡国語辞典 第二版』(2011)によると, 夕月夜の語構成は ゆー・づきよ である. 40人の日本人大学生を対象に「夕月夜」のアと語境界についてアンケート調査を行った. 結果, 語境界について: ゆー・づきよ 18人45%, ゆーづき・よ 16人40%, どちらでも6人15%;アについて: ゆーづ]きよ 15人37.5%, ゆーづき]よ 21人52.5%, どちらでも4人10%. 4割りの人は 夕月夜 を ゆーづき・よ の語構成だと認識した. こうして, Yが3拍の「月夜 つきよ」ではなく1拍の「夜 よ」になる可能性が十分高い. 「ゆーづき・よ」の語構成では, 「ゆーづき]よ」になると考えられる. 本発表の「Yが3・4拍」の限定範囲から外れるため, ここでは総体数に入れず削除した.

(b) Yの語頭拍が無声化

表3では, Yの語頭拍母音が無声化する不連濁語のすべてのA型とB型の語, そして代表的AB型の語の一部を示している.

表3: 両ア辞典から抽出した(b)Yが語頭拍無声化する語の一部

Y語彙	Y読み	Z語彙	Z読み	Yの保存状況	Y語種	Y語境	Yタイプ	出典辞典
一つ	①と]つ	身一つ	み①と]つ み①]とつ	AB型	和語	2+1	I	NHK
宿舍	②ゆく]しゃ	国民宿舍	こくみん②ゆく]しゃ	B型	漢語	2+1	I	NHK
地方	③ほ]ー	カシミール地方	カシミール③ほ]ー	A型	漢語	1+2	I	NHK
試験	④け]ん	予備試験	よび④け]ん よび④け]ん	AB型	漢語	1+2	I	NHK
躑躅	⑤つ]じ ⑤つじ=	山躑躅	やま⑤つ]じ やま⑤つ]じ	AB型	和語	3	II	NHK
司教	⑥きよ]ー ⑥]きよー	大司教	だい⑥]きよー	A型	漢語	1+2	II	NHK
資金	⑦]きん ⑦き]ん	回転資金	かいてん⑦]きん かいてん⑦き]ん	AB型	漢語	1+2	II	NHK

機関	㊦かん ㊦かん	下部機関	かぶ㊦かん	AB型	漢語	1+2	II	NHK
期間	㊦かん ㊦かん	在学期間	ざいがく㊦かん ざいがく㊦かん	AB型	漢語	1+2	II	NHK
不孝	㊦こー	親不孝	おや㊦こー	B型	漢語	1+2	I	新明解
資金	㊦きん	越年資金	えつねん㊦きん えつねん㊦きん	AB型	漢語	1+2	I	新明解
畜生	㊦くしょー	犬畜生	いぬ㊦くしょー	B型	漢語	2+2	I	新明解
躑躅	㊦つじ ㊦つじ=	山躑躅	やま㊦つじ やま㊦つじ	AB型	和語	3	II	新明解
地方	㊦ほー ㊦ほー	奥羽地方	おおわ㊦ほー おおわ㊦ほー	AB型	漢語	1+2	II	新明解
試験	㊦けん ㊦けん	期末試験	きまつ㊦けん きまつ㊦けん	AB型	漢語	1+2	II	新明解
機関	㊦かん ㊦かん= ㊦かん	金融機関	きんゆう㊦かん きんゆう㊦かん	AB型	漢語	1+2	II	新明解
期間	㊦かん ㊦かん= ㊦かん	有効期間	ゆうこう㊦かん ゆうこう㊦かん	AB型	漢語	1+2	II	新明解

表3からわかるように、不連濁のYが語頭拍母音無声化の場合において、Yが1+2漢語なら、「語頭拍母音無声化」説に当てはまりやすく、AB型になる。例外もある：不孝 ㊦こーなどの語は、ア核位置が保存される場合がある。試験 ㊦けん (NHK) と試験 ㊦けん, ㊦けん (新明解) のような違いがあるが、NHKは生産性に忠実であることに対し、新明解が規則による対応関係に忠実であることが予測される。例：試験 ㊦けん→期末試験 きまつ㊦けん, ㊦けん→きまつ㊦けん (新明解)。躑躅 ㊦つじ ㊦つじ= は和語であり頭高型ではなく平板型を持つため、「語頭拍母音無声化要因」と無関係であると考えられる。

(c) **Yの語頭拍が無声化しない** 「連濁不関与語」と「Yが語頭拍母音無声化の不連濁語」を除き、連濁語と一般的な不連濁語(Yが語頭拍母音無声化しない不連濁語)を比較する。連濁語ではB型数が0個である。一方、一般的な不連濁語ではB型がかなり存在する(B型51個22.6%)。つまり、連濁が生じることによってYのア核位置が保存されなくなる傾向が見られる。

(d) **連濁不関与** 連濁語の0個0%に比べるとかなり割合が大きいの(B型71個28.9%)。これも「連濁要因」の正しさを証明する。

(e) **タイプII** Yの中高型とその他のA型の併用によって、A型又はAB型になる(Yが頭高型、尾高型や平板型であれば、複合名詞のア規則によりA型になるのが普通である)。

3. 連濁と意味のまとまりとア

前節に連濁とアの関係を紹介したが、本節では他の関連する現象から、連濁がYのアに影響する理由について考察する。

3.1 格関係と連濁とア

表4は鈴木(2008)が奥村(1984)、金田一(1976)、佐藤(1989)、中川(1966)の研究に基づいて、まとめた連濁細則をさらに整理した表である。

表4: 格関係と連濁とアの関係(Yが2拍動詞連用形転成名詞の複合名詞)

		連濁を生ずる	連濁を生じない	
		(2) 目的格・主格		
		(2a) その動作の結果生ず	(2b) 「…ヲ…スル」	(2c) 「…ヲ…スルコト/モノ」

	(1) 連用修飾格	る具体物・対象を示すとき	コト」の意識が薄く、 一語としての意識が 強いもの	ヒト」の目的格・主格
書き		人相書き にんそーがき＝		物書き ものかき] ものか]き
張り			目張り めばり＝	傘張り かさ]はり
きり	辻斬り つじぎり＝			爪切り つめき]り つめきり]

表4の(2c)の目的格・主格では連濁を受けない起伏型になる。一方、意味のまとまりが強い、(2a) (2b)の目的格・主格と(1)の連用修飾格では、連濁を生じて、アも平板型になる。

3.2 Yが2拍の同音異義語

窪菌(1995)は「日本語の複合語を特徴づける音韻現象である連濁も意味論による意味制約を受けている」と述べている。尾鰭 お]ひれ は「尾と鰭」の意味であり、おびれ＝が「尾の鰭」の意味である。山川 やま]かわ は「山と川」の意味であり、やまがわ＝が「山の中での川」の意味である。この2つの例から、連濁と不連濁の対立が意味の区別に繋がっていることが分かる。おひれ、やまかわ は並列複合名詞であり連濁を生じず、アが起伏型になる。一方、まとまりが強い おびれ、やまがわ は連濁してアも平板型になる。

4. まとめ

後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる。すなわち、複合名詞が「不完全複合名詞」から「1単位の複合名詞」に変わる。これは、連濁が起こると、複合名詞の意味のまとまりがより強くなるのがその原因である。

参考文献

- 秋永一枝(編)(2015)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- 上野善道(1999)「複合名詞後部要素のアクセント型保存」『言語と文化の諸相』岩手大学人文社会科学部 pp.159-212
- 奥村三雄(1984)「連濁」『日本語学』3-5 明治書院 pp.89-98
- 北原保雄(編)(2011)『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 金田一春彦(1976)「連濁の解」*Sophia Linguistica II* 上智大学大学院言語学研究室 pp.1-22
- 窪菌晴夫(1995)『語形成と音韻構造』くろしお出版
- 窪菌晴夫・伊藤順子・A. Mester(1997)「音韻構造から見た語と句の境界—複合名詞アクセントの分析—」『文法と音声』くろしお出版 pp.147-166
- 佐藤大和(1989)「複合におけるアクセント規則と連濁規則」『日本語の音声・音韻(上)』明治書院 pp.233-265
- 鈴木豊(2008)「動詞連用形転成名詞を後部要素とする複合語の連濁」『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』8 pp.212-234
- 中川芳雄(1966)「連濁連清(仮称)の系譜」『国語国文』35-6 京都大学文学部 国語学国文学研究室 pp.302-314
- 松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)『日本語アクセント入門』三省堂
- NHK放送文化研究所(2016)『日本語発音アクセント新辞典』NHK出版